

村上市の概要

平成20年4月1日(2008年)

新設合併により「**村上市**」

(旧：村上市、荒川町、神林村、朝日村、山北町)

《H31.4.1現在》

人口：59,822人 (高齢化率/37.9%)

[H20/70,019人 (▲10,197人)]

世帯数：22,497世帯

[H20/22,777世帯 (▲280世帯)]

面積：1,174.26km²

[宅地：16.67/田畑：86.42/森林：620.91/その他：450.26]

集落数：277集落

- ・新潟県の北部に位置し、約50kmに及ぶ海岸線
(県総面積の約9.3%)
- ・主要道路は国道7号,113号,290号,345号
(山形↔新潟の重要物流路)
- ・日本海国土軸の形成を担う「日本海沿岸東北自動車道」が整備中
(朝日まほろばIC～あつみ温泉IC)



天皇杯 地域みんなでいただきました！



新潟県村上市高根

高根地内 9850ヘクタール

戸数 161戸 人口550名余り

小学生18名 中学生7名

高校生10名

JR村上駅から定期バス
で50分 一日4往復

主要道路は県道高根村
上線1本 途中一車線で
積雪2m

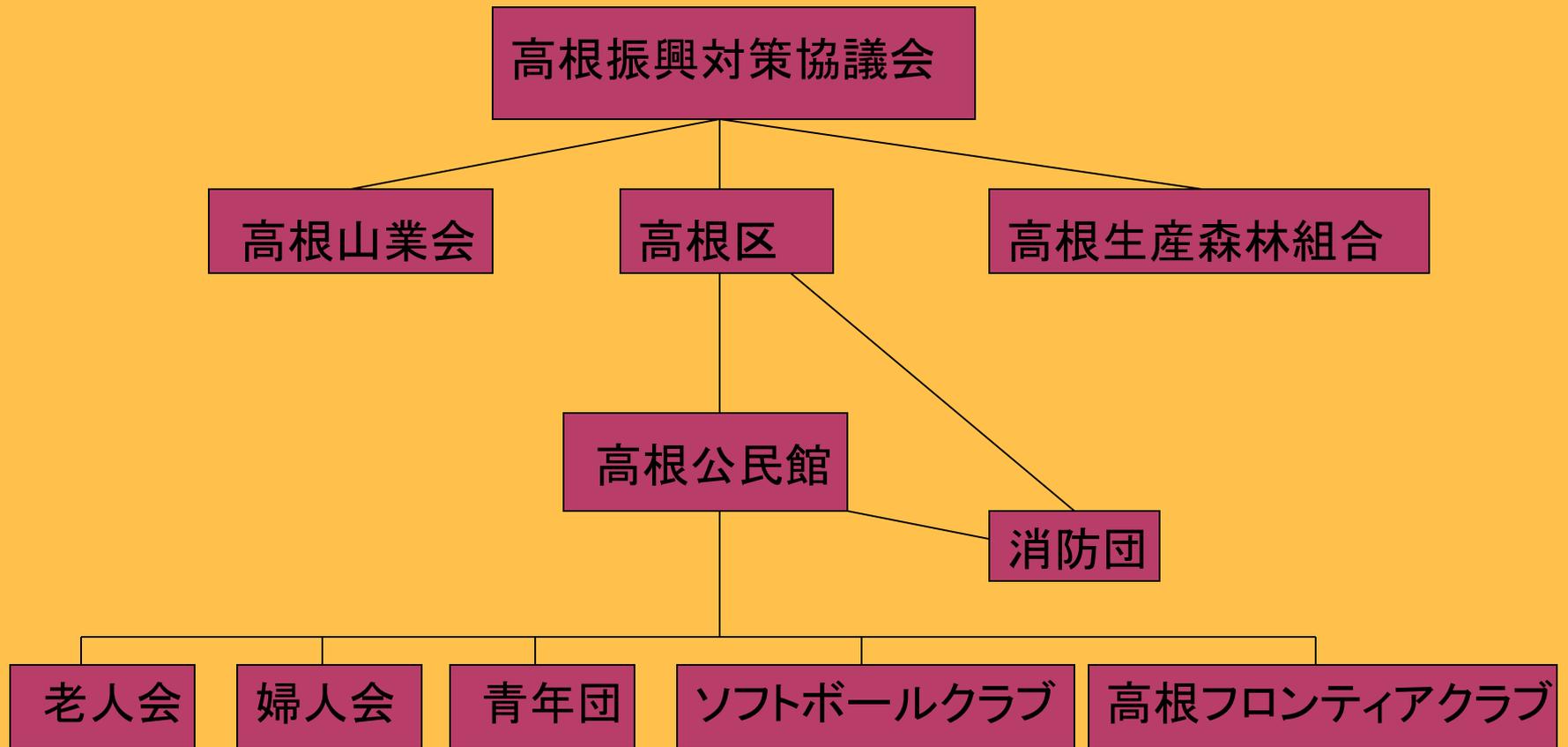
冬はすれ違いがままな
らない場所多数有。



高根の行政区分の歴史

- 明治17年 山口村・高根村合併
- 明治22年 高根村・北大平村・関口村・薦川村合併
- 昭和29年 下川郷5ヶ村合併で朝日村
- 平成20年 1市2町2村合併で村上市

高根集落組織図



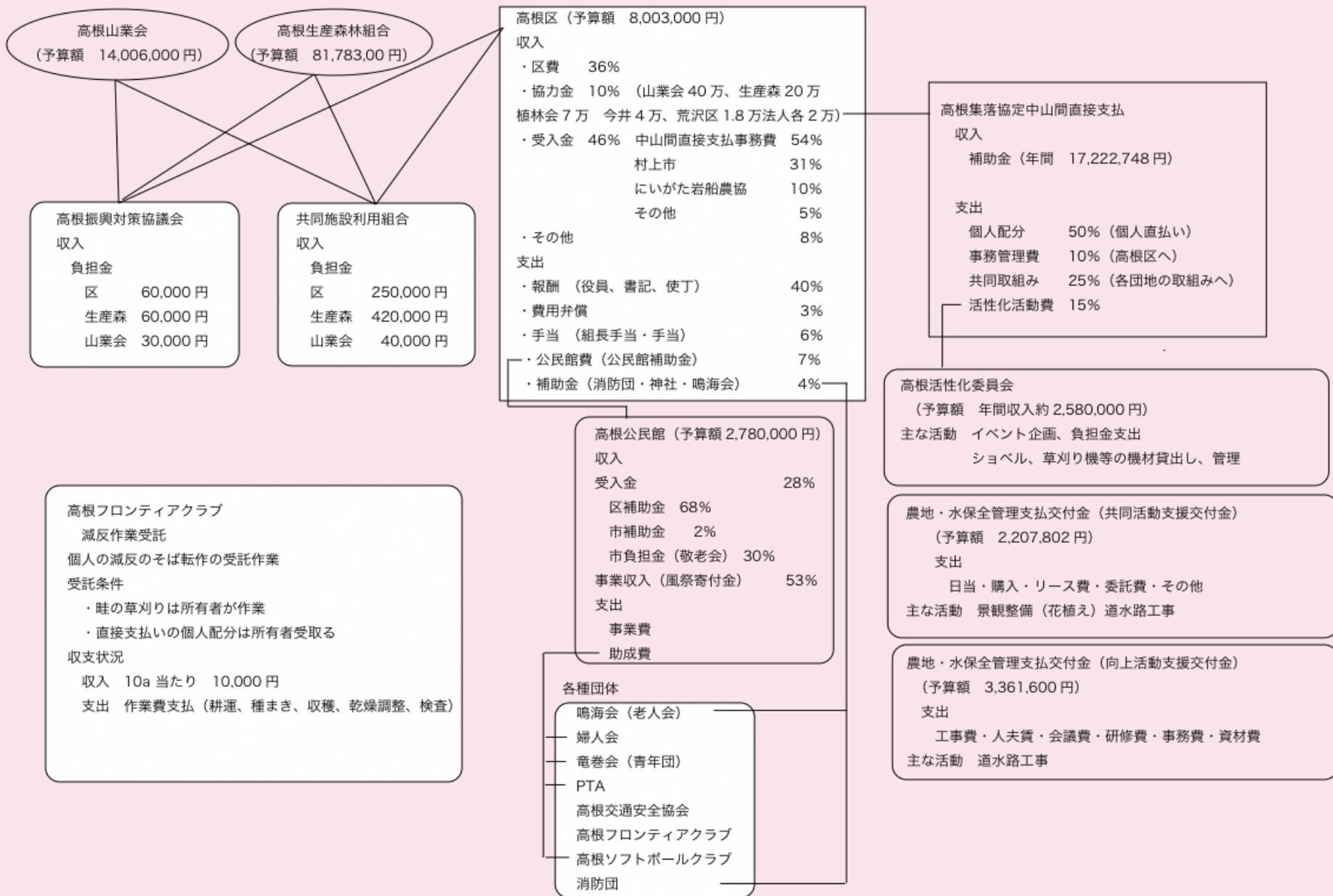
高根区

- ・役員 区長以下5名 監事2名
- ・職員 1名 パート1名
- ・予算規模 800万円(区費、協力金等)

高根公民館

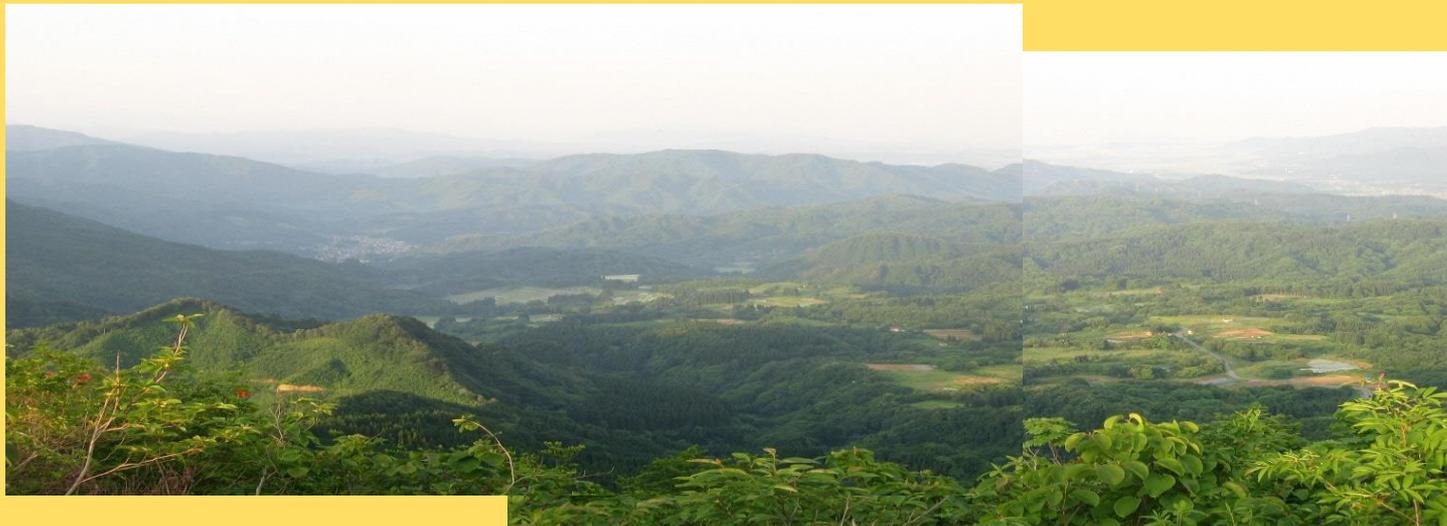
- ・役員 館長以下7名
- ・予算規模 280万円(高根区からの補助＋集落民の寄付金)

平成 26 年度 高根集落組織及び財政仕組み



高根山業会

- 112名の記名共有の入会.
- 役員5名(任期2年).
- 1,200ヘクタールの所有地を有する。
- 雇用は夏期労務者2名
- 事業収入はH30年度
2,800万円
- 主な収入は市行造林と土地
貸付料(農地も所有)



高根生産森林組合

- 集落全戸加入
- 役員7名(任期3年)
- 3,926ヘクタールの所有地を有する。天然林3,125ヘクタール
- 雇用は事務員2名
- 夏期労務者50代4名
60代1名 70代4名
- 事業収入H30年度
5,200万円
- 主な収入は各種造林収入





高根フロンティアクラブの仕事
(高根集落のまちづくり)
H8年6月(1996年) 結成

高根集落再生計画づくりの経緯 集落の合意形成 地域の自立考え

事前学習会 1999.11.11

- ・ワークショップの理解
- ・ワークショップの体験

第1回ワークショップ 1999.11.18

- ・高根の資源データ集め
- ・資源データの集約

第2回ワークショップ 1999.12.9

- ・高根再生データの抽出(想いを出し合う)
- ・大まかな方向性の絞りこみ(想いを集める)

第3回ワークショップ 2000.2.13

- ・目標設定
- ・計画全体設計と評価
- ・全体の振り返りと次年度の計画の確認

集落の未来デザイン・ワークショップ



2000.2



集落の宝物探し
(200名以上の参加者あり)
外からの目も大切に

2000.5



ワークショップで決めた5つの柱



- ①天蓋高原の観光農園づくり
- ②高根小学校の再生
- ③新しい特産品づくり
- ④高根らしいイベント計画
- ⑤森の里づくり

天蓋高原の土地利用
(5万本のひまわり畑)

(観光農園計画)

遊休化された土地をなにか利活用できないかとの思いがあり、地域外から人を呼び込むツールとして貸し農園が提案されたが？



高根らしいイベント計画

雪中貯蔵体験(春蔵開き)



天蓋高原夏祭り
満開のひまわり畑で



ビオトープを整備 ビオトープツアー開催



収穫祭(新そば祭り)



季節を共有しながら生活を楽しむ



旧高根小中学校
(廃校になって約3年)

(廃校利用計画)

ワークショップ当時の想い

廃校となった高根小学校には
みんなの思いがいっぱい詰まっ
ています。私たちはこの愛着あ
る校舎を元気づくりの拠点とし
て再生させ、郷土資料館や各
種体験教室、宿泊施設などの
機能を持たせていきます



改装にあたっての支出450万円

250万円は集落民からの出資
200万円は新潟県の里創プラン
の補助金





店準備



めでたく開店
平成15年10月
(2003年)



開店早々
大忙し



地元で採取される物をお金に変える。
→地域でお金を共有する！



体験受け入れ

昔のおもちやづくり体験



ソバ打ち体験



ピザづくり体験



体験を通して文化・伝統を共有する



集落の手仕事体験



農家レストランと棚田の維持

集落の農地 80ヘクタール

- ・減反がなくなったが、中山間地直接支払い受け 耕作放棄地にならないよう耕作
畔の草刈り年3回 植え付け面積より広い畦畔
- ・現在12町歩の減反地にそば栽培を行い
収穫したものを食堂、そば打ち体験に活用



楽しい森、おいしい森(森づくり計画)

ワークショップ当時の想い

高根は森に囲まれた自然豊かな環境が自慢です。こうした森をこれからも大切に保全するとともに、数多くの清水を生かした水辺環境の整備や遊歩道の整備などを進め親しみのある森の里づくりを実現します。

2003年 森づくりWS開催

・高根マップ作成



NPO共存の森による ぶな植樹・稲作体験 TOTO、キャンンの森作り



日本山村会議の開催（新しい交流） （2005.11.2→5）



日本山村会議 民泊受入実験（新しい試み）



感動・恵みを共有しながら土地を利活用



どぶろく「雲上」と
農家民宿「ざいごもん」

(特産物づくり計画)

1998. 10どぶろく初仕込み

2005 農家民宿開設WS開催(10回)

ワークショップ当時の想い

高根の特産品は、おいしいお米や山菜、きのこなど数多くありますが、自然の恵みはまだ多くの可能性を含んでいます。私たちはそうした素材を調査研究し、新しい技術開発力とマネジメント力を強化していきます。



山のおいしさ学校 高根醸造場

どぶろく 雲上

雲上 山桜

高根の美しく清らかな大自然と歴史
人情に育まれ
雲の上に乗るがごときの酔い心地



完成品

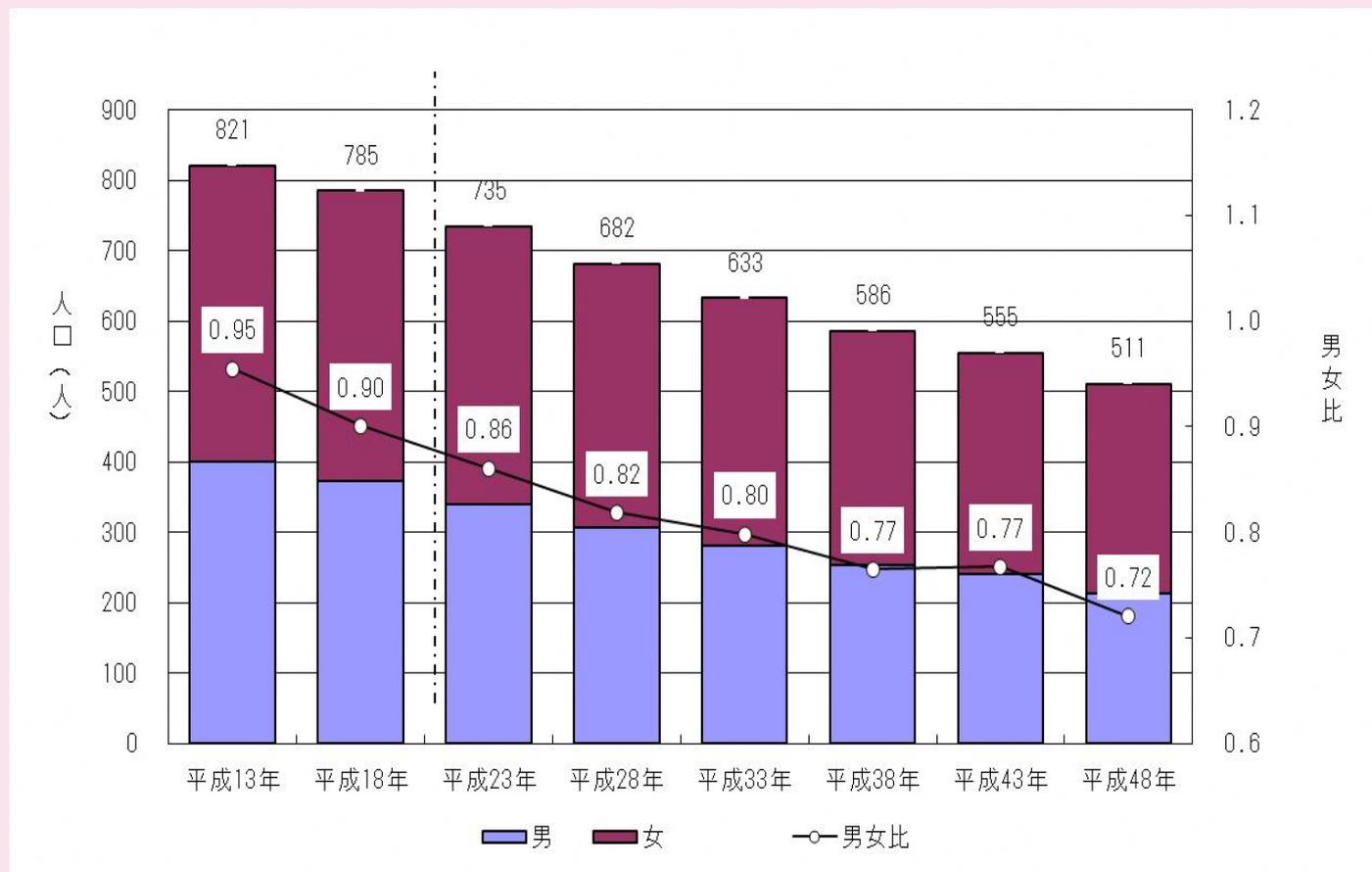
雲上 アルコール度数 13~14度
山桜 アルコール度数 8~9度



高根フロンティアクラブ
10、20周年記念祝賀会
しかし課題も？



平成18年での人口予測



平成28年(2016) 人口590名
高齢化率39%
(予測は人口682名)

15年後は

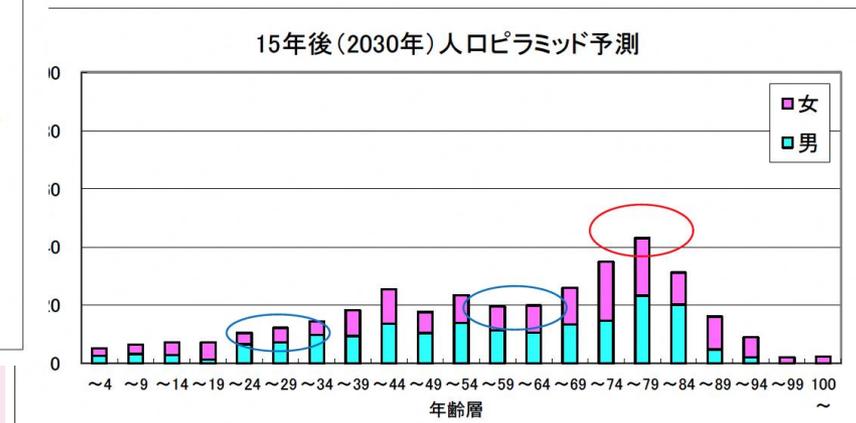
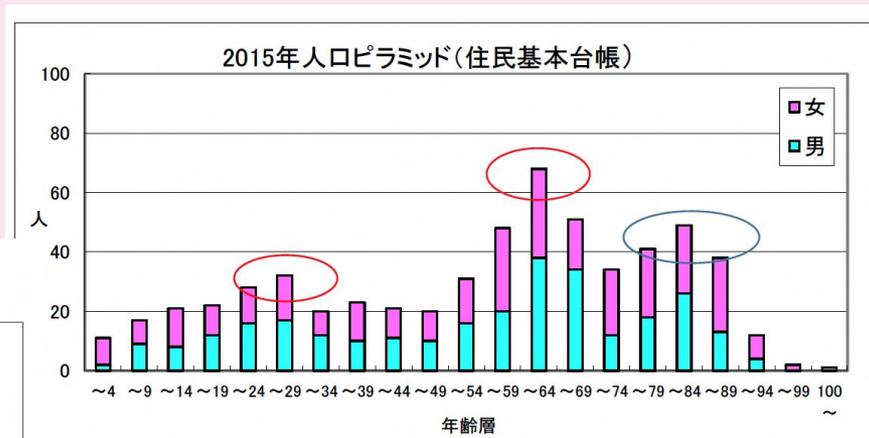
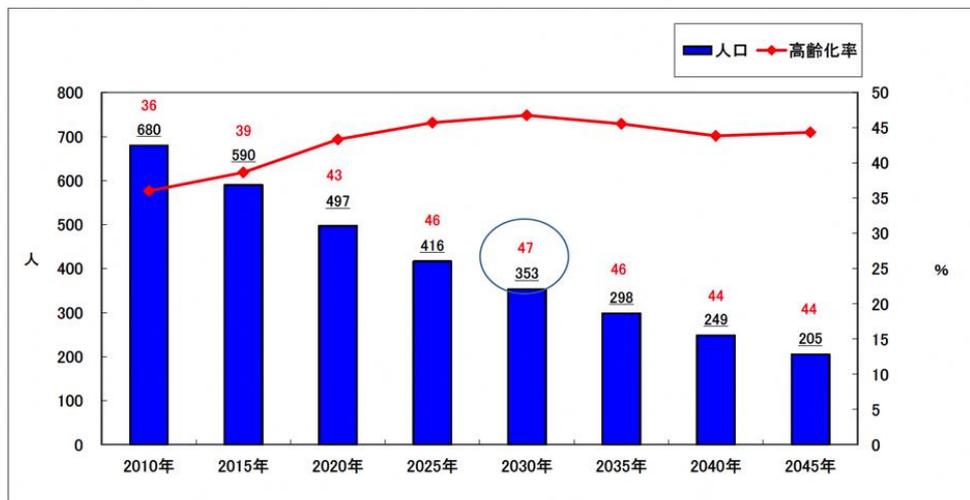
山間地域ではあるが、Uターンもあり、まだ若者が活躍している。

しかし高齢化に伴い、2030年には人口が約40%減。

人口353人高齢化率47%になる。

高根の中核になる世代の人数も減り、今の暮らしを維持することは難しいと予測できる。

旧朝日村高根地区の人口予測



危機感の中で

あたらしい仲間・あたらしい風
若い力と共に！



高根の森林は50年前に次世代のために
と木を植えたはず、我々もこれから50年後
を思い世代を繋ぐ活動していきたいと思い
2014新しい目標を設定しました。





2014年 新しい柱の設定

2015.3.11 第4回たかねみらいづくりワークショップ資料

第3回たかね・みらいづくりワークショップ（2014.12.10）のまとめ
～ワークショップで出てきた意見を整理すると次のような事業の柱が浮かび上がってきた～

高根振興対策協議会・高根活性化委員会 合同会議（2015.2.5）
～ワークショップで出てきた意見を方向性を議論～

①遊休農地の有効活用

- ▷農地を都会の人に貸し出す仕組みづくり（オーナー制など）
- ▷新たな特産品となる作物の栽培

②鳥獣被害（サル・クマ）対策の実施

- ▷里山整備・環境改善と連動させた鳥獣対策の実施

③空家・空き施設の有効活用

- ▷空家・山小屋を活用した短期滞在施設・シェアハウスの整備
- ▷学校の2階部分の有効活用

④文化・歴史・技術の次世代継承

- ▷食文化：郷土料理教室／そば打ち達人の育成
- ▷暮らし：鳥追い・たんす担ぎなどの昔ながらの風習の復活

⑤集落内コミュニティを維持するための仕組みづくり

- ▷日常的な交流機会の創出（ゆんたく（井戸端会議）／縁側カフェ）
- ▷気軽に立ち寄れる場づくり（日常型地域の茶の間／よごもり拠点の整備）
- ▷子どもたちが日常的な集まる場づくり（遊び・勉強・習い事ができる寺子屋）
- ▷各種組織の統合・再編・名称変更
- ▷回覧板以外の情報伝達手段の仕組みづくり
- ▷集落住民による IRORI での昼食会

⑥交流の密度をさらに高める

- ▷外部の人が「高根の暮らし」を体験できるプログラムづくり
- ▷集落の営みを伝える看板・サインの設置
- ▷総合型山暮らしテーマパークづくり
例：休耕田を活用したキャンプ場／釣り堀／茸狩り／スノーモービルなど
- ▷国際交流・海外からのお客さんを受け入れる

⑦新たな特産品開発

- ▷天蓋高原ブランドの野菜づくり（大根）
- ▷わさび・またたび・桑などの活用
- ▷個人での取り組みを応援する仕組みづくり

⑧地域ブランド化の推進

- ▷都市部とのネットワークを活用した販売拡大（共存・キヤノン・TOYO）
- ▷特産品のプロモーション活動・販路拡大を担うチームづくり（広報・営業）
- ▷海外への販売

農の営みを
継続させて
農地を保全する

空家・空き施設を
有効に活用する

集落コミュニティを
維持するための
仕組みをつくる

交流の密度を
さらに高める

高根をもっと売り出す

集落づくりの方針（案） 具体的な取り組み内容

1.

今の時代に即した
コミュニティづくりの
仕掛けとプログラムをつくる

井戸端会議が昔に比べて減った・・・
冬の内職が無くなったので、集まる機会自体が減った
子どもたちも一緒に遊ぶ機会が減った
↓
今の時代に即した場をつくらう！

- ①新しい形の「寄り合い」づくり
→集落の人が手軽に集える場と機会をつくる
例：縁側カフェ／ゆんたくなど
→既存の各種組織の再編
- ②次世代を育てる寺子屋づくり
→同年代の子ども同士のつながりを育む仕掛けづくり
→外遊びや習い事など、安心して子どもを預けられる場・機会をつくる

2.

高根の暮らしを体験してもらう
環境を整える

山林・遊休農地の活用は、鳥獣対策をしないと出来ない
↓
高齢化が進んでおり、地域の人だけでは対策は難しい
↓
外部との交流をさらに推進していこう！

- ①短期滞在施設の整備
→空家・空き施設・山小屋を活用し、外部の人が短期滞在できる施設を整備する
- ②「暮らし体験」プログラムの整備
→農作業や集落の共同作業など、「高根の暮らし」そのものを体験できるプログラムの整備

3.

売る仕組みをつくる

米や加工品など売れるモノはもうある
↓
つくることよりも「売る」ことに力を注いでいこう！

- ①生産・営業体制の構築
→高根で作られたモノを、集落外で積極的に販売していくための体制をつくる
- ②販路開拓のためのプロモーション活動
→消費者やお店などと直接つながり、販路を拡大する

若い力と共に、
あたらしい取り組み

時代に合ったコミュニティ



暮らし体験

